

東アジアに平和の共同体を

日本 A A L A フィリピン訪問団の活動

2017 年 12 月 20 日

日本 AALA 連帯委員会事務局長 野本久夫

1. 活動の概要 フィリピン外務省内で記念撮影 (12/6)

- 12/3(日) 羽田空港からマニラのニノイ・アキノ空港へ、女性ガイド (ヒデコさん) と専用車で元米海軍基地だったスービック経済特区へ
- 12/4 (月) 反対運動で稼働を止めたバターン原発見学、スービック元海軍基地跡で活動する NGO: Buklod と交流 (昼食をとりながら)、NGO の案内で基地跡見学
- 12/5 (火) スービックからマニラへ移動、クラーク元米空軍基地跡を車窓から見る、「バターン死の行進」モニュメント (石碑) 見学、マニラ市内見学 (教会、要塞跡、リサール公園)
- 「平和シンポジウム」(マニラホテル)、その後、ゲスト 3 名と夕食懇親会
- 12/6 (水) フィリピン外務省を訪問、「国際署名」(約 13,000 筆) を提出し、懇談、スモーカーマウンテンを車窓から見学後、バセコ (スラム地区) で活動する NGO: GAWAD KALINGA と交流・懇談し、スラムを見学 (この NGO は 2006 年にマグサイサイ賞を受賞)、カジノ見学、ショッピングセンターで買物
- 12/7(木) 国立博物館見学、ニノイ・アキノ空港から帰国の途に

2. マニラで「平和シンポジウム」開催 12月5日(火) マニラホテル



*フィリピンのゲスト

◇ 非核フィリピン連合 (1981 年結成)

ロラン・シンブラン議長 (フィリピン大学教授)

コラソン・ファブロス事務局長 (弁護士)

◇フィリピン女性連盟

プリンセス・ネメンゾ (会長)

夫のネメンゾ元フィリピン大

学学長も同席

- * 日本の参加者全員 (16名)
- ◇ 団長：野本事務局長が開会の挨拶
- ◇ 通訳・司会 松宮敏樹記者、田中靖宏代表理事
ヒデコ・スエナガさん (ガイド)

平和シンポでは、日本AALAがめざす非核・非同盟、外国軍事基地の撤去をもとめる課題が両国で驚くほど一致していることが確認され、今後とも団結、協力していくことを誓いました。

3. フィリピン外務省を訪問 「国際署名」を提出 12月6日(水)



10月から田中代表理事は駐日フィリピン大使館と折衝し、フィリピン外務省に「国際署名」受取の実現を求めてきました。粘り強い交渉の結果、外務省訪問は前日の5日夕刻に確定しました。12月6日(水)午前10時、ツアー参加者全員(17名)が外務省会議室に招かれ、外務省ASEAN事務局の担当者3名が対応しました。

田中代表理事は、最初に訪問の目的について次のように述べました。「フィリピン外務省に『国際署名』の提出が訪問の目的であり、62年前に創立の日本AALAは、以来AALA諸国の人民との連帯運動、沖縄での米軍基地撤去、平和、非核・非同盟の日本のたたかいを進めてきた。北東アジアが北朝鮮のミサイル発射などで緊張している今、ASEANの50年の経験に学び、問題の平和的解決を望んでいる。日本AALAはここ3年間「国際署名」活動を続けており、日本人の平和のメッセージと13,000筆の署名を受け取ってほしい。」

3名の職員は、「日本AALAの訪問、ASEANの努力への評価に感謝する。『国際署名』を受け取りたい。日本はフィリピンに経済、教育、スポーツなどの支援をしており、感謝している。また、最大のパートナーである。」と発言しました。和やかな懇談のあと「国際署名」を手渡しました。

★フィリピン外務省へ国際署名を提出するにあたっての口上書

2017年12月5日 日本AALA連帯委員会代表理事 田中 靖宏

本日は、お忙しいなか時間を取って面会していただきありがとうございます。日本AALAとツアー・グ

ループを代表してお礼を申し上げます。今日は、フィリピン政府がASEANの議長国として東アジア首脳会議を主宰し、平和の努力を続けられたことに、日本国民としての感謝を伝えたくてまいりました。

日本AALAは62年前に創設されました。バンドン会議の精神を受け継ぎ、アジア・アフリカの民族解放運動と連帯し、当時、米軍の支配下にあった沖縄の日本復帰運動に携わりました。現在、核兵器も外国軍事基地もない、平和で公正な世界を目指して運動しています。

今日、日本をとりまく北東アジアの情勢は北朝鮮問題で大変緊張しています。私たちが憂慮しているのは、北東アジアには問題を話し合いで解決する対話の枠組みがないことです。これと対照的に東南アジアは、創立50年を経たASEANという恒常的な組織があり、ここを舞台に多様な対話の枠組みが発展しています。そして内政不干渉と紛争の話し合い解決の原則をもとに、紛争を大きな戦争に発展させない努力が重ねられています。今年もフィリピンのドテルテ大統領の議長のもとで、南シナ海問題の平和解決をめざして大きな前進が図られたと承知しています。

ASEANは2015年の共同体発足にあたって、この対話の輪を今後とも域外に広げ、東アジア首脳会議などの枠組みをさらに発展させて東アジアの平和の秩序に貢献する方針を示しています。私たちはこのASEANのイニシアチブと努力を支持し感謝するとともに、東アジアに平和の共同体を建設する努力をさらに発展させてほしいと願うものです。この立場から、私たちは毎年、東アジア首脳会議(EAS)が開催される議長国を訪問し、政府とNGOに感謝と要望を伝える運動をしています。今年も13000人の会員の賛同署名を集めて持参しました。日本国民の強い感謝の気持ちと願いとして受け取っていただきたいと思います。(以上)

4. バターン原発見学、NGOとの交流懇談

◇ バターン原発を視察



マルコス政権はバターン原発を1984年に完成させました。1979年にスリーマイル島原発事故が発生し、フィリピン国内では原発に反対する「非核フィリピン連合」が1981年に結成され、稼働反対運動が高揚しました。84年、85年に反核ゼネストが行われ、稼働を阻止しました。以来30数年止まったままです。ツアー参加者はフィリピン電力公社職員の案内で原子炉内部、管理

室、タービン室などを見学しました。建物や内部の施設は老朽化しており、さびが出て腐食しているのが分かります。補修には膨大な費用が掛かり、稼働の見通しはありません。最近では原発の見学者が減ってきており、見学そのものがなくなる可能性があるとのことで

す。

5、スービック元米海軍基地撤退後の被害者との交流・懇談

1987年結成の Buklod という女性団体の代表と交流・懇談しました。1992年に米軍スービック海軍基地・クラーク空軍基地の撤退後、Buklodは被害者の支援に取り組んできました。物資販売による財政事情は厳しく、参加者は彼らの手製のバッグを購入し、カンパを寄せました。基地で長年働き、アスベスト吸引



被害の男性、脳性マヒの子どもを17歳で亡くした女性、元売春婦で今、バーで働く女性を支援する方、アイタ族という少数民族の男性の話聞き、懇談しました。代表のアルマさんは女性の力をつけることが目的で、売春禁止法の国会通過をめざしていると述べました。米軍基地で警官だった男性の案内で「基地内」の弾薬庫跡、スービック空港、ビーチを見学しました。

◇ マグサイサイ賞を受賞した NGO : GAWAD KALINGA (G.K)

バセコというスラムで活動している NGO の GAWAD KALINGA は、2004年にバセコで大火があり、それ以来、30から48戸からなる居住区を作り、2024年までに500万人の貧困をなくすことを目標にしている、政府は土地を与え、予算をつけるが直接家を建てるわけではなくボランティアが建てる、財界からの援助もある、などと述べました。元気な子供たちが NGO の事務所前の広場に集まり、参加者は文房具、書籍、折り紙などを贈り、笑顔一杯の子供達でした。この NGO:GK は2006年にマグサイサイ賞を受賞しています。

* 「マグサイサイ賞」は、フィリピン大統領ラモン・マグサイサイを記念して1957年3月に創設された賞で、毎年マニラ市のラモン・マグサイサイ賞財団がアジア地域で社会貢献などに傑出した功績を果たした個人や団体に贈る。「アジアのノーベル賞」とも呼ばれる。(200人以上の個人、10を超える団体が受賞。日本人は22名が受賞)

フィリピン共和国

(1) 概要

面積：29.9万km²（日本の0.8倍）、7,100余の島から成る

首都：メトロ・マニラ（人口 約1300万人） 民族：マレー系が主、スペイン系、中国系、山岳地帯に少数民族

宗教：カトリック 83%、その他のキリスト教 10%、イスラム教 5%

公用語：フィリピン語、英語

2017 年 ASEAN 議長国

(2) 歴史

1521 年 マゼランが到着、マクタン島の王との戦闘でマゼラン殺害、スペインの植民地に (~1896 年)

1896 年~1946 年 アメリカの植民に

1943 年 第 2 共和制 第 2 次世界大戦で日本が占領、約 50 万人が犠牲に、マニラ大虐殺 (10 万人犠牲)、バターン死の行進

1946 年 独立 第 3 共和制 ロハス、キリノ、マグサイサイ、ガルシア、マカパガル政権

1965 年 マルコス政権 ベトナム戦争 1969 年撤兵

1967 年 ASEAN 設立 タイ, インドネシア, シンガポール, フィリピン, マレーシアの 5 か国で 1983 年 ベニグノ・アキノ暗殺

1984 年 バターン原発完成 (1976 年建設開始) 反原発ゼネスト 84 年、85 年

1986 年 コラソン・アキノ政権 バターン原発稼働中止決定、新憲法を起草

1987 年 国民投票で憲法を承認、発行

1992 年 ラモス政権 米軍撤退

1998 年 エストラダ政権

2001 年 アロヨ政権

2009 年 ベニグノ・アキノ 3 世政権 2013 年 常設仲裁裁判所に「南シナ海」提訴

2016 年 ドゥテルテ政権 南シナ海 常設仲裁裁判所 裁定 中国と 2 国間交渉に

(3) 在比米軍基地撤去の経過と米軍の再登場

1947 年 アメリカと「軍事基地協定」締結

1951 年 アメリカと「相互防衛条約」締結

1979 年 軍事基地貸与期間 25 年に短縮する協定

1991 年 米比政府間での基地存続交渉開始

1991 年 6 月 ピナツボ火山噴火 クラーク空軍基地 降灰で壊滅的被害

1991 年 7 月 米比政府 クラーク空軍基地撤収、スービック米海軍基地 10 年間継続で合意

1991 年 8 月 米比両政府「比米友好協力安全保障条約」調印

1991 年 9 月 比上院議会「比米友好協力安全保障条約」批准を否決 (賛成 11, 反対 12)

1991年12月 1年以内でスービック米海軍基地から米軍撤退も決定

1992年11月 スービック米海軍基地から米軍撤退が完了

1999年 訪問米軍地位協定 (the Visiting Forces Agreement)

2001年 相互兵站支援協定

2006年 安全保障関与委員会

2014年 米比防衛協力強化協定 (Enhanced Defense Cooperation Agreement)

* 現在のフィリピン議会 上・下二院制

上院 24 議席 (任期 6 年, 連続三選禁止) 下院 297 議席 (任期 3 年, 連続四選禁止)

(以上)